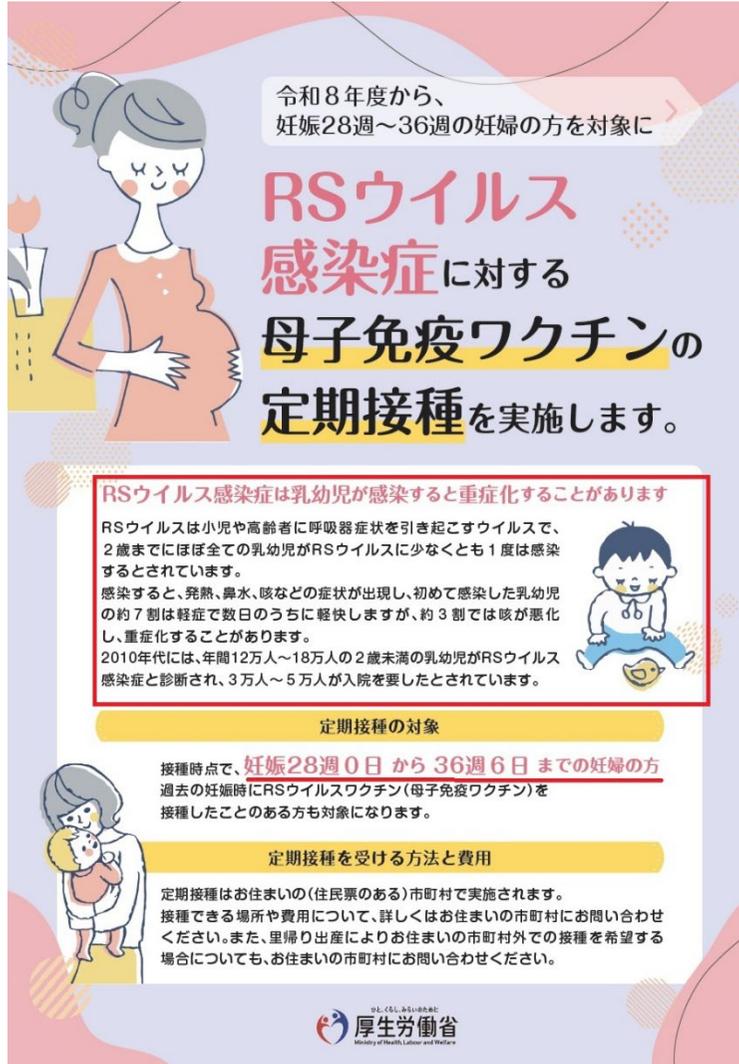


① RS ウイルスワクチンのご案内(厚労省 HP より)



令和8年度から、  
妊娠28週～36週の妊婦の方を対象に

## RSウイルス感染症に対する 母子免疫ワクチンの 定期接種を実施します。

**RSウイルス感染症は乳幼児が感染すると重症化することがあります**

RSウイルスは小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、2歳までにほぼ全ての乳幼児がRSウイルスに少なくとも1度は感染するとされています。

感染すると、発熱、鼻水、咳などの症状が出現し、初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、重症化することがあります。

2010年代には、年間12万人～18万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、3万人～5万人が入院を要したとされています。



**定期接種の対象**

接種時点で、**妊娠28週0日 から 36週6日 までの妊婦の方**過去の妊娠時にRSウイルスワクチン(母子免疫ワクチン)を接種したことのある方も対象になります。

**定期接種を受ける方法と費用**

定期接種はお住まいの(住民票のある)市町村で実施されます。接種できる場所や費用について、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。また、里帰り出産によりお住まいの市町村外での接種を希望する場合についても、お住まいの市町村にお問い合わせください。

厚生労働省  
Ministry of Health, Labour and Welfare

### 使用するワクチン(母子免疫ワクチン)について

母子免疫ワクチン(ファイザー社の組換えRSウイルスワクチン:アプリスボ<sup>®</sup>)を使用します。このワクチンは、妊婦の方に接種すると、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時からRSウイルスに対する予防効果を得ることができます。



接種スケジュール	妊娠28週0日から36週6日までの間に1回接種
----------	-------------------------

### ワクチンの効果

	有効性 <sup>(※1)</sup>	
	日齢0日～90日	日齢0日～180日
RSウイルス感染症による医療受診を必要とした下気道感染症 <sup>(※2)</sup> の予防	6割程度の予防効果	5割程度の予防効果
RSウイルス感染による医療受診を必要とした重症下気道感染症 <sup>(※3)</sup> の予防	8割程度の予防効果	7割程度の予防効果

※1 妊娠24週～36週の妊婦を対象としています。  
※2 肺炎、気管支炎等の感染症  
※3 医療機関への受診を要する気道感染症を有するRSウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸、SpO2 93%未満、高流量鼻カニューレまたは人工呼吸器の装着、4時間を超えるICUへの収容または無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

### ワクチンの安全性

ワクチンの接種後に副反応がみられることがあります。

主な副反応には、接種部位の症状(疼痛、腫脹、紅斑)、頭痛、筋肉痛があります。

ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では、妊娠高血圧症候群の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したというものもありますが、解釈に注意が必要であるとされています。

接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へお問い合わせください。

●他のワクチンとの同時接種について

医師が特に必要と認めた場合は、他のワクチンと同時接種が可能です。

### 予防接種後に健康被害が生じた場合は、救済制度があります

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすることはできないことから、救済制度が設けられています。

接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。制度の利用を申し込むときは、予防接種を受けた時に住民票を登録していた市町村にご相談ください。

厚生労働省ホームページ  
厚労省 RSウイルス 母子免疫ワクチン



2026年4月

②RS ウイルス感染症予防薬(抗体製剤など)※長野県立こども病院 HP から引用

1. RSウイルス感染症の予防薬について

現在、RSウイルス感染症の予防薬は以下の3種類があります。

<p>1.シナジス (一般名パリズマブ)</p>	<p>20年以上前から使用されているモノクローナル抗体薬です。月1回、注射することでおさんの体内の抗体が高く維持され、RSウイルスの感染を予防・重症化を防ぎます。 シナジスの適応には従来の早産児、先天性心疾患、慢性肺疾患、免疫不全症、ダウン症候群に加えて2024年に追加となった肺低形成、気道狭窄、食道閉鎖症、代謝異常症、神経筋疾患の患者さんが含まれます。</p>
<p>2.ベイフォータス (一般名ニルセマブ)</p>	<p>ベイフォータスもシナジス同様モノクローナル抗体薬ですが、1回の注射で約5か月間にわたって効果が持続する点が最大の特徴です。したがって通常は1シーズンに1回の接種で済みます。ベイフォータスは国内では昨年頃から使用されています。 ベイフォータスとシナジスの効果はほぼ同等と考えられますが、シーズン中一人の患者さんに両方を用いることは健康保険上できません。なおベイフォータスの適応となるのは早産児、先天性心疾患、慢性肺疾患、免疫不全症およびダウン症候群を有するおさんのみとなっています。</p>
<p>3.RSウイルス母子免疫ワクチン</p>	<p>妊婦さんに接種することで、生まれてくるおさんの感染を予防できるRSウイルス母子免疫ワクチン (商品名アブリスボ) は、当院でも2024年12月から接種可能となりました。詳しくは下記、「妊婦さんへのRSウイルスワクチン接種」をご覧ください。</p> <p>予防接種センター (「妊婦さんへのRSウイルスワクチン接種」)</p>

質問時使用パネル

高年齢者接種助成を  
抗体製剤情報も!

RSウイルスワクチン  
対象者安全性等周知徹底を!

③厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会 副反応検討部会)2026年2月4日議事録より引用

第110回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和7年度 第11回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会	資料2-26
2026(令和8)年2月4日	

組換えRSウイルスワクチンの  
副反応疑い報告状況について

○組換えRSウイルスワクチン

商 品 名 : アプリスボ筋注用  
 製 造 販 売 者 : ファイザー株式会社  
 販 売 開 始 : 令和6年5月  
 効 能 ・ 効 果 : ○妊婦への能動免疫による新生児及び乳児におけるRSウイルスを原因とする下気道疾患の予防  
 ○60歳以上の者におけるRSウイルスによる感染症の予防

副反応疑い報告数 (令和7年7月1日から令和7年9月30日報告分まで:報告日での集計)
--

令和7年7月1日から令和7年9月30日までの医療機関への納入数量を接種可能なべ人数とし、副反応疑い報告頻度を計算したものは以下のとおり。  
 ※報告日での集計のため、以下の件数には接種日や発生日が対象期間以前の症例も含まれている。

(単位:例)

	接種可能なべ人数 (回数)※	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告	
		報告数 ( ):接種日が左記期間内の症例		報告数 ( ):接種日が左記期間内の症例	
		報告頻度	報告頻度	うち重篤	うち重篤
令和7年7月1日 ~令和7年9月30日	34,331	15 (1) 0.0437% (0.0029%)	1 (0) 0.0029% (0.0000%)	0 (0) 0.0000% (0.0000%)	0 (0) 0.0000% (0.0000%)
(参考) 販売開始日~ 令和7年9月30日	113,645	75 0.0660%	4 0.0035%	1 0.0009%	1 0.0033%

※一人あたり一回接種されたと仮定した。

令和7年7月1日から令和7年9月30日報告分の重篤例の転帰

(単位:例)

	製造販売業者からの報告						医療機関からの報告					
	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計
重篤例数	7	0	0	0	8	15	0	0	0	0	0	0

第110回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和7年度 第11回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会	資料2-25
2026(令和8)年2月4日	

組換えRSウイルスワクチンの  
副反応疑い報告状況について

○組換えRSウイルスワクチン

商 品 名 : アレックスビー筋注用  
 製 造 販 売 者 : グラクソ・スミスクライン株式会社  
 販 売 開 始 : 令和6年1月  
 効 能 ・ 効 果 : RSウイルスによる感染症の予防

副反応疑い報告数 (令和7年7月1日から令和7年9月30日報告分まで:報告日での集計)
--

令和7年7月1日から令和7年9月30日までの医療機関への納入数量を接種可能なべ人数とし、副反応疑い報告頻度を計算したものは以下のとおり。  
 ※報告日での集計のため、以下の件数には接種日や発生日が対象期間以前の症例も含まれている。

(単位:例)

	接種可能なべ人数 (回数)※	製造販売業者からの報告		医療機関からの報告	
		報告数 ( ):接種日が左記期間内の症例		報告数 ( ):接種日が左記期間内の症例	
		報告頻度	報告頻度	うち重篤	うち重篤
令和7年7月1日 ~令和7年9月30日	4,078	2 (0) 0.0490% (0.0000%)	0 (0) 0.0000% (0.0000%)	0 (0) 0.0000% (0.0000%)	0 (0) 0.0000% (0.0000%)
(参考) 販売開始日~ 令和7年9月30日	30,538	6 0.0196%	1 0.0033%	1 0.0033%	1 0.0033%

※1人あたり0.5mL接種されたと仮定した。

令和7年7月1日から令和7年9月30日報告分の重篤例の転帰

(単位:例)

	製造販売業者からの報告						医療機関からの報告					
	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計	回復/ 軽快	未回復	後遺症	死亡	不明	計
重篤例数	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0

#### ④東京都医師会「令和8年度東京都予算に対する要望事項」から引用(東京都財政局 HP)

(7) 高齢者のRS ウイルス感染症の発生頻度の調査及びワクチン接種の公費助成

**(新規)**

2040年まで東京都の人口は減ることがなく、特に高齢人口は増加し続けることが指摘されています。このような状況では、高齢者の入院の原因となる疾患を一つ一つ減らしていくことが肝要です。高齢者において肺炎は単なる感染症の一症状ではなく、治療経過中のベッド上安静は運動機能や認知機能の低下に直結します。乳児期のRS ウイルス感染症については良く知られていますが、高齢者におけるRS ウイルス感染症に関するデータは未だ不足しています。感染症サーベイランス事業において、肺炎で入院した高齢者の原因病原体検査を充実させること、併せて、高齢者

- 8 -

---

へのRS ウイルスワクチンの接種勧奨、費用助成を要望します。